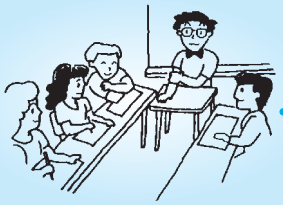


編集ボランティアのページ

●担当編集ボランティア／森　勝己、築城基裕、岩下茂子、石井恵子、堀部　麗

～ボランティアとしての心構え 5箇条～

最近、わたくしが所属するボランティアグループから、一人の男性が去っていきました。それとなく、その理由を聞いたところ、彼は「前から思っていたが、リーダーが偉そうにものを言うのがいやだ」と興奮して話しました。不特定多数の人の集まりであるボランティアの世界にはあり勝ちなことの一つと思いました。そこで、いろいろ聞きおよんだ話や、わたくしなりのボランティア経験から、仲間とうまく付き合う心構えを考えてみました。

1．相手の立場に立つ…… 善意が押しつけにならないよう、お互いに理解し合うためのコミュニケーションを十分とり、わだかまりがないように気遣うこと

2．約束を必ず守る…… ボランティアは善意で行うもので強制ではありません。しかし、連絡もせず突然休んだり、投げ出したりしたら相互の信頼関係を失います

3．無理をしない…… 活動は長く継続して行うところに意義があり成果も生まれます。「出来る人が、出来る事を、出来る時間に」協力して行えれば理想的です

4．人間関係を大切に…… 謙虚な心で相手を思いやることに尽きます。個人の過去の栄光や自慢話は避けることが無難です。対等・平等で話し合える関係づくり

5．責任と継続性…… ボランティアをはじめることは自由ですが、相手がある活動は勝手にやめることは出来ません。自分の役割を認識し、継続が大切です

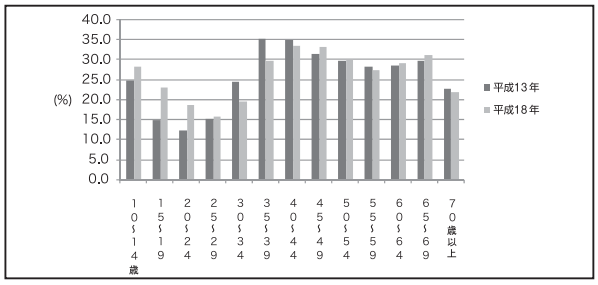
思いつくままに挙げてみましたが、実際の日常の活動の場では、まだまだたくさんの留意すべき点があります。ボランティアの世界は対等・平等が基本といわれますが、対外的にも、また活動のためにも上下関係は必要不可決であり、皆が認め合った結果の自然派生型が理想ではないかと思います。「自由」の中にも「規律」があることを心得ることが大切と思います。

統計から見るボランティア活動の実態

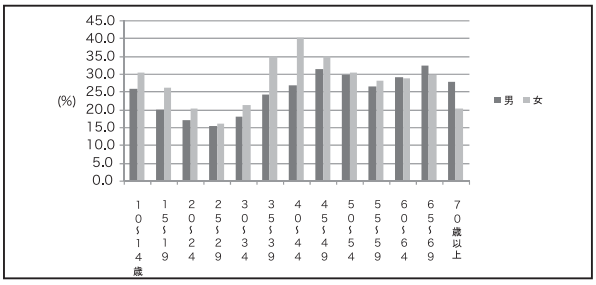
世間ではどれくらいの人々が活動されているのでしょうか？　今回は、ボランティア活動を行った人の性別・年令について調べてみました。（資料：総務省「平成13年、18年　社会生活基本調査」）

全国で1年間に何らかの「ボランティア活動」を行った人は、平成13年では3263万4千人で、男性は1485万6千人、女性は1777万8千人。平成18年では2972万2千人で、男性は1387万7千人、女性は1584万5千人となっており、ボランティア活動は一般化してきていますが5年前より291万2千人少なくなっています。

年齢階級別では40～44歳が最も高く、男女別では60歳以上の男性が高くなっています。



【年齢階級別「ボランティア活動」の行動率(H13年、18年)】



【男女・年齢階級別「ボランティア活動」の行動率(H18年)】

※行動率＝ボランティア活動人口の調査対象10歳以上人口に占める割合

こんにちはチャイブでーす

一宮市北丹町に旧老人福祉施設和楽荘の跡地を利用して、樫の木福祉会が新しい福祉サービスを始めました。施設の名称は一般からの公募で「療育サポートプラザ・**チャイブ**」。**チャイブ**とは「家族の幸せ」という花言葉のあるハーブの一種で、ハンディキャップのある人たちとその家族がいつも幸せでいられるようにとの願いをこめ、この植物の名前を施設の名称にしました。

チャイブには、ハンディキャップのある人たちが働くお店、「**おやまのカフェ**」「**雑貨・駄菓子屋こまこま**」があり、**またその施設全体の維持管理も障がいのある人たちが自分たちで行っています。**

「おやまのカフェ」ではコーヒー・日替わりランチや手作りカレーライスが人気を集めています。

「こまこま」では子どもからお年寄りまで楽しめる手作り雑貨や駄菓子を販売しており、また一ヶ月500円で借りることのできるワンコインレンタルボックスコーナーでは、木工品やアクセサリー、おもちゃなど、何でも自由に販売できるコンセプトが好評です。初めての人、ひやかしの方大歓迎です。一度のぞきに来て下さい。

詳しくは下記までお問い合せ下さい。
TEL28-8288

「介護と暮らし」　実録体験レポート1　～介護認定の申請～

突然ですが、皆さん、介護生活の経験はありますか？
介護する側ですか。それともされる側ですか。

今回は、私自身の話で恐縮ですが、最近の実体験をもとに、介護をする側の立場から、まずは要介護申請手続きの実際を日記風にレポートしたいと思います。

先日私の父（73歳）が自宅で倒れ、救急車で運ばれ、入院となりました。詳細原因は不明ですが全体として体力の衰弱の上、脱水症状を起こし、体中の痙攣と共に軽い狭心症状態であったと推測されています。その転倒の際に右肩鎖骨を骨折し、肋骨にもひびが入っているということでした。また、やはり数年前からの認知症の傾向もありCT検査によると脳も萎縮しているとのことでした。その後今日現在に至るまで約２週間、体力の方は少しずつ回復し、何とか自力で？トイレに行けるレベルまできています。数日後に退院の予定です。そこで問題はその後の生活です。父は一人暮らしをしていましたが、当面（永遠？）わが家に迎え入れる選択をしました。同時に市内近くにある「地域包括支援センター」に相談し、少しでも負担が減ればとの思いで早速「要介護申請手続き」をお願いしました。実は数年前に祖父母が亡くなった際に私自身、少し介護の勉強（介護福祉士）をした覚えもあり、このような時にはどこに相談したりすればよいか？といったことを知っていたことも役に立ちました。思ったより早く申請から１週間後に市役所の担当者１名が病院を訪れ、私と妻も同席のもと、いろいろと質問を受けました。現在の体の状態、頭（認知症）の状態、生活の詳細等々、をお話し、メモされていました。また別に病院の看護師さん等にも少し取材している様子でした。はたして父に「要介護」の認定がなされるのか？この４月から介護認定の基準も変わり、全体的に厳しくなったとのことです。根拠はありませんが、父は何とか歩けるので私の推測では「要支援」位ではないかと思っています。あとは頭の認知症状をどこまで考慮されるのでしょうか？その辺は病院のソーシャルワーカーの方に聞いてもなかなか明確な判断基準がわからないとのことでした。果たしてこの結果は？次回のレポートにつづきます。